

令和4年度病害虫発生予察予報第8号（11月）

令和4年11月7日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央、西)</u> 、やや少(中西) <u>多(中央)</u> 、平年並(西)、やや少(中西) <u>多(西)</u> 、やや多(中西)、やや少(中央) やや少(中央、中西)、少(西) 平年並(中西)、少(中央、西) <u>やや多(中央)</u> 、少(中西、西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(東)、やや少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、並(西)、やや少(東) <u>やや多(東)</u> 、平年並(中央)、少(西) やや少(西)、少(東、中央) 並(中央、西)、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ チャノキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(中央、中西)</u> 、並(東) 平年並(東、中央)、少(中西) 平年並(中西)、少(東、中央) <u>多(東、中西)</u> 、少(中央) <u>やや多(中央)</u> 、並(東、中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 ハスモンヨトウ タバココナジラミ	やや少(中央) <u>多(中央)</u> やや少(中央) <u>やや多(中央)</u> やや少(中央)

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れていきます。

I 気象予報（高松地方气象台 令和4年11月3日発表）

<予想される向こう1か月の天候>11月5日から12月4日

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすい時期があるため平年並か高いでしょう。特に、2週目はかなり高くなる可能性があります。

向こう1ヶ月の平均気温は平年並、高い確率ともに40%、降水量は少ない確率40%、日照時間は多い確率40%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は低い確率40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	40	30	30
		日照時間	30	30	40

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		10	30	60
3～4週目		40	30	30

<予報の対象期間>

1ヶ月：11月5日（土）～12月4日（日）

1週目：11月5日（土）～11月11日（金）

2週目：11月12日（土）～11月18日（金）

3～4週目：11月19日（土）～12月2日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（中央部、西部）、やや少（中西部）

根 拠

(1)10月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年よりも多かった。発病程度は西部で平年よりも高く、中央部で低かった。

(2)11月は、例年発生が増加する時期であり、気温が平年並かやや高いと予想されていることから、現在発生が多い地域では多発生の状況が継続し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気に

よりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)、平年並(西部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1)10月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、西部で少なかった。発病程度は中央部で平年よりもやや低く、西部で低かった。
- (2)11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年並かやや高いと予想されていることから、発生面積は増加し、未発生地域においても発生するようになると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤の防除効果は、上位葉等への進展状況で判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度はいずれの地域も平年並であった。
- (2)例年、11月には既感染株の発症により発生が増加する。一方、気温の低下にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの野外からハウス内への飛び込みが減少することから、新たな感染株の発生は少なくなると考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや少(中央部、中西部)、少(西部)

根 拠

- (1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年並、西部で平年よりも少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2)気温の低下とともに野外密度も低下し、ハウス内への飛び込みが少なくなることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産みつけられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並(中西部)、少(中央部、西部)

根 拠

(1)10月の調査では、県中西部で発生が見られ、発生面積、発生程度とも平年並であった。

(2)例年、11月以降発生が増加する傾向が見られるものの、気温の低下にともない、野外からハウス内への飛び込みが少なくなるので、現在の発生状況が継続すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部)、少(中西部、西部)

根 拠

(1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部、西部でやや少なかった。発生程度はいずれの地域とも低かった。

(2)気温の低下にともない、野外からのハウスへの侵入が少なくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(東部)、やや少(中央部、西部)

根 拠

(1)10月の調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年よりも少なく、発病程度は平年よりも低かった。

(2)11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年並かやや高いと予想されていることから、発生面積は増加し、未発生地域においても発生するようになると考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、並(西部)、やや少(東部)

根 拠

(1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部でやや少なく、東部で少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高く、東部、西部で低かった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているが、気温の低下とともにハウスの換気量が少なくなり多湿状態になりやすくなるため、発生はやや増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（東部）、平年並（中央部）、少（西部）

根 拠

- (1)10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中央部でやや多かった。また、発生程度は東部、中央部ともに平年よりも高かった。
- (2)気温の低下とともに野外密度も低下し、ハウス内への飛び込みが少なくなるため、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年並、東部で平年よりもやや少なく、中央部で少なかった。発生程度は東部で平年よりもやや低く、中央部、西部で低かった。
- (2)気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みが少なくなる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：並（中央部、西部）やや少（東部）

根 拠

- (1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、その他の地域では平年並であった。発生程度は県西部で平年よりもやや高く、東部で平年並、中央部で低かった。
- (2)気温の低下にともない、野外からハウス内への飛び込みが少なくなる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（中西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

(1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりもやや多く、その他の地域では少なかった。発病程度はいずれの地域も平年より低かった。

(2)11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年並かやや高いと予想されていることから、発生面積は増加傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、並（東部）

根 拠

(1)10月の巡回調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年より多かった。発生程度は中西部で高く、中央部で平年並であった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているが、気温の低下とともにハウスの換気量が少なくなり多湿状態になりやすくなるため、発生はやや増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：平年並（東部、中央部）、少（中西部）

根 拠

(1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部と中央部で平年よりも多く、中西部でやや少なかった。発生程度は東部と中央部で平年よりも高く、中西部で低かった。

(2)気温の低下とともに野外密度も低下し、ハウス内への飛び込みが少なくなるため、発生は減少すると考えられる。

対 策

(1)本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

(1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、東部と中央部で平年並であった。発生程度は中央部で平年よりもやや低く、東部と中西部で低かった。

(2)気温の低下にともない野外密度も低下するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、発生は減少すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) チャノキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（東部、中西部）、少（中央部）

根 拠

(1)10月の調査では、県東部、中西部で発生が見られ、発生面積は県東部、中西部で平年よりも多かった。発生程度は東部、中西部で平年よりも高かった。なお、中西部では今回初めて発生が確認された。

(2)東部、中西部では発生面積、程度ともに高いことから、現在の多発生状況が継続すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時から選択性殺虫剤による防除を徹底する。

(2)果樹類や樹木類に広く寄生することから、施設内にこれらの植物を持ち込まないようにする。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中央部）、並（東部、中西部）

根 拠

(1)10月の調査では、県下全域で見られ、発生面積は県中央部、中西部で平年よりも多く、東部では平年並であった。発生程度は東部で平年よりもやや高く、中央部でやや低く、中西部で低かった。

(2)気温の低下にともない野外密度が低下するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

(1)10月の調査では、発生が見られなかった。

(2)例年、11月に発生の増加が見られる。本年の気象条件は気温が平年並かやや高い

と予想されていることから、発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)10月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年よりも高かった。
- (2)気象条件は気温が平年並かやや高いと予想されていることから、現在の状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1)10月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発病程度は平年並であった。
- (2)例年、11月に発生の増加が見られるが、気温の低下にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの野外からの飛び込みが少なくなることから、新たな感染株の発生も減少すると予想される。

対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1)10月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。
- (2)気温の低下とともに野外密度は低下するため、ハウス内への飛び込みは少なくなるため、減少すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1)10月の調査では、本虫の寄生は見られず、また本虫が媒介する黄化葉巻病の発生は平年よりも少なかった。
- (2)気温の低下とともに本虫のハウス内への侵入が少なくなると考えられるが、例年、

11月に発生が増加すること、気象条件はほぼ平年並と予想されていることから、発生はやや増加すると予想される。

対 策

(1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.